

研究部だより

秋田県立栗田支援学校
研究部 第1号
令和6年6月21日発行

研究テーマ「自ら学び続ける子どもを育てる授業づくり」

昨年度の成果と課題を踏まえ、各学部研究の方向性が見えてきました。各学部の取組で目指す児童生徒の姿に注目すると、本研究の仮説にある系統的で発展的な学びの積み重ねを感じるのではないかと考えます。ぜひ、他学部の取組についても目を通してください。

小学部

～「やりたい」「できた」「もっとやってみよう」と児童が感じ、自ら取り組もうとする姿を目指して～

小学部では、「授業づくりのポイント」を生かした授業づくりと、「丁寧な学びの見取り」による評価、改善により、成果を上げてきました。今年度は昨年度の課題を踏まえ、児童の「やりたい」という気持ちと、教師が育てたいと願う姿のすり合わせを丁寧に行い、授業づくりを行います。それにより上記の児童の姿を追求することができ、児童が自ら学び続ける姿へとつながっていくと考えます。

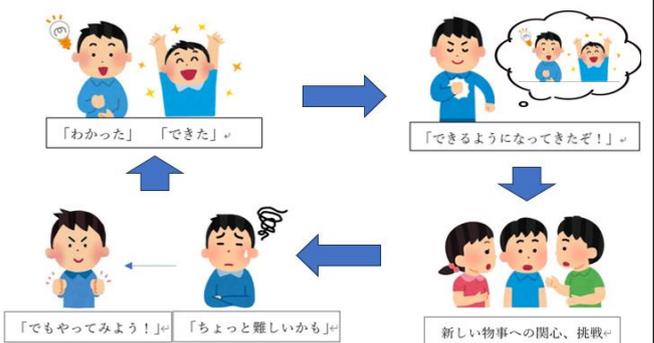


中学部

～生徒が学びを実感し、自ら考えたり、行動したりする姿を目指して～ 研究対象：生活単元学習（中心単元）

中学部では、昨年度まで進路学習を研究対象授業として授業づくりを行ってきました。そこで課題として挙げられた勤労観の育成を今年度の重点とし、そのために「学びの実感」を意識した授業づくりを行います。

学びを実感し、自ら学び続ける子どものイメージ



高等部普通科

～お互いに学び合う姿を目指して～

昨年度までの研究を通して、授業の中で生徒同士が関わり合う姿が多く見られるようになってきました。今年度は、相手を意識し、お互いが学び合える授業づくりを行います。

お互いに学び合う姿のイメージ

- ・ 友達の様子を見ながらやってみる
- ・ 友達と一緒にやってみる
- ・ 友達の様子を見たり、意見を聞いたりして自分の考えや行動について振り返る



このような姿を、授業づくりの中で具体的に考え、場の設定や手立ての工夫について考え、実践していきます。

高等部総合サービス科

～生徒が自ら気づき、考え、学びを表現する姿を目指して～

昨年度の研究課題を踏まえ、本科では上記の姿を目指します。その姿を目指すことで、自ら学び続ける子どもへと変容すると考えます。研究方法は以下のとおりです。

研究成果を生かした授業づくり

生徒の表現を促す手立ての工夫



- ・ 異学年の学び合い
- ・ 学びを発揮する機会の設定
- ・ 自己・他者評価の場面設定 など

校内外の人材との連携

ゴールの姿の明確化

- ・ 外部専門家との意見交換
- ・ 自立活動アドバイザーの活用 など

